

とんがらし通信



お内裏さまとお雛さま
二人並んですまし顔？

No.256

～主な内容～

- ・施設長コラム
- ・特集 コロナ禍のあれこれ ・研修報告
- ・活動紹介(節分、音楽活動)
- ・Close-up! ・職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室
発行責任者 山口 収
発行日 2022年3月25日
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752
E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



人は過去に何を学ぶのか 巻

今年もまた、3月11日がやってきました。あの震災から11年。齢を重ねているせいもあり、正直、記憶は少しずつ薄れゆくのですが、直接的にあの日を経験した者として忘れてはいけないこと・伝え続けなければいけないことがあると思います、今年もこの原稿を書いています。

つどいの家は東日本大震災によって大きな被害を受けました。法人内の事業所は海岸からは大きく離れていたために、直接的な津波の被害こそありませんでしたが、『仙台つどいの家』そしてグループホームの『さくらはうす』が本震・余震によって全壊してしまいました。地震の翌日からは活動や利用者さんの生活の再開のために、法人職員一丸となって事業の復興に向けて取り組むわけですが、その際に全国各地の障害福祉に携わる法人・事業所の方たちに物心両面にわたる大きな支えをいただきました。交通が遮断されている中、地震直後に義援金を持って駆けつけていただいた方。活動を再開させるために交代で職員さんを派遣してくださった方。事業所周辺地域の住人のために炊き出しをしていただいた方。片付けと活動の両立に悩んでいたところ、がれきの撤去や備品の運搬などに駆けつけてくださった方。送迎車両の不足に、遠方から運転して車両を提供していただいた方。全壊した事業所の再建資金にと、知り合いに呼び掛けて長期にわたり多額の義援金を送ってくださった方。。限りなく多くの方たちの支援の上に今日のつどいの家があることを忘れてはいけません。11年の月日の経過は当時を知る職員を減少させ、震災後に入職してきた職員が半数を超えるという状況を生み出しています。巷では震災自体の風化が叫ばれていますが、つどいの家にとってはこの『第二の原点』を忘れずに引き継いでいくことが大切だと考えています。

もうひとつ。この日に改めて考えたいのが福島状況です。震災後に示された廃炉に向けた工程表は、全くと言っていいほど予定通りには進んでいません。震災から11年。本来なら溶解した燃料デブリの取り出し作業が始まっている時期ですが、先月になってようやくデブリの状況をロボットに搭載したカメラで確認できたという段階でしかないのです。最長40年と言われていた廃炉作業ですが、現時点でいつまでかかるのか、果たして廃炉自体ができるのかどうかもはっきりしておらず、先の見通しは全く立っていません。そんな中、福島の人たちは全国の避難先で11回目の3月11日を迎えているわけです。福島第一原発の立地する双葉町は、いまだに全町避難が続いています。今年6月には特定復興再生拠点で避難指示を解除する予定ですが、1月から始まった『準備宿泊』の登録者は現時点で20世帯程度にとどまっています。町民を対象としたアンケートでは、6割を超える人たちが『双葉町に戻ることはできない・考えていない』と回答しており、周辺の町村も含め、自治体の存続そのものを危ぶむ声も上がっています。

そんな中。福島から8,000キロ離れたウクライナでは、ロシアによる軍事侵攻が勃発しています。この時代に大国の大統領が独裁的に軍事行動を進めること自体が信じがたい暴挙ですが、中でも『核爆弾使用をちらつかせての西側諸国へのけん制』と『原発・核関連施設への直接攻撃による制圧』は到底許されるものではありません。

さらに。この侵攻と時を合わせるようにして、安倍元首相の口から『核シェアリング』の議論に向けた発言が飛び出しました。プーチン大統領の核使用を辞さないという発言を受けて『満を持して』ということなのでしょうが、ウクライナ国内における市民の置かれた厳しい状況の中で飛び出したこの発言もまた、人としての品格を疑うに余りあるものだと思うのです。戦争に巻き込まれた子供たちの哀しい涙を、どのような思いで見ているのでしょうか。唯一の被爆国であり、人の力では制御しきれない大きな原発事故を経験した、我が国にしかできない発信というものがあるのではないのでしょうか。

連日流れるウクライナの惨状に、11年経った今も故郷に帰りたくても帰れない福島の人たちの心に、少しでも寄り添った行動を日本の政治家のみなさんには見せてもらいたいと思います。過去から真摯に学ぶ姿勢は、立場に関わらず、『人』が持つべき大切なことだと思うのです。

(管理者 山口 収)



鬼は～外！福は～内！！

今年も豆まきの季節がやってきました！！

創作の時間を使って、鬼のお面やパンツを作成。くるみの松浦和也さんが味のある鬼の顔を書いたり、「じいじ」ことけやき職員の大西さんがこの時期らしいマスクをしている赤鬼のお面を作ってくれました。

豆まき当日、鬼が各グループを回ります。コン棒を持った鬼に「鬼は～外！」と威勢よく豆やチョコレートをつつけます。食べるのが大好きな利用者さんたちは鬼そっちのけで豆やチョコレートを食べてましたが…。

今年も無事に豆まきが終わった～！と思いましたが、豆まき当日残念ながらお休みしていた奥津欣也さんが「今年も鬼やりたい…」とお面を持ってきました。毎年豆まきを楽しみにしている欣也さん。節分は終わりましたが、今年も各グループを回ります。「鬼は～外」と豆をつつけられますが、仲間からは「あら、欣ちゃん。今年も鬼やってるのね？」。愛されキャラの欣也さんは怖い鬼のお面をかぶっているにも関わらず、みんなから歓迎されます。

今年も沢山豆をまいたので、豆の数だけ沢山の福が訪れますように…。

(記：松原)



さんしょのピアニスト

1月からさんしょ職員に仲間入りした淡路さんがピアノが得意だということで、淡路さんのピアノ演奏に合わせて音楽活動を行いました。普段から音楽活動は行っていますが、ピアノを弾ける職員がおらず、CDやYouTube、キーボードに内蔵されている音源を使用していた音楽活動が多くなっていました。久しぶりの生ピアノに加藤剛さんは大喜びでした♪特に「おもちゃのチャチャチャ」「手のひらを太陽に」「犬のおまわりさん」に反応良く、ニコニコ笑顔で時々「おお～」と声を出して歌っていました。さんしょメンバーはもちろん、他グループのメンバーもピアノの音に誘われて、沢山の人々がホールへ集まってきました。



もみじグループの東成児さんやくるみグループの富田樹さんも音楽に合わせて体を動かし、リズムをとって楽しんでいる様子でした。つとどい歴が長い職員達からは、昔の仙台つとどい家の活動を思い出すなあ～！との声もあり、しみじみ。最後のメには中島みゆきの「糸」をみんなで大合唱しました。やっぱり生ピアノでの音楽活動は良いものですね♪次は何を歌おうかな？(記：佐藤唯)

コロナ禍のあれこれ・・・

2月2日から8日までの5日間、仙台つどいの家は休館になりました。PCR検査でコロナの陽性反応が出た方がおり、感染を広げないための休館でした。仙台つどいの家は吸引・経管栄養などの医療的ケアが必要な方や、抵抗力が弱く慢性疾患のある方など、感染症に罹患しやすい方が多く通ってきています。利用者さん・ご家族にはご迷惑をおかけする心苦しさはありましたが、休館対応とさせていただきホームページ上で逐次状況を報告することとしました。

休館中は、まず館内の各部屋と公用車の徹底清掃と消毒を行いました。日頃から公用車や手すり・ドアノブなど多くの人の手が触れるところの消毒は行っていましたが、この機会に壁や床など普段消毒しないところも行うことができました。同時に、毎日利用者さんの健康状況を電話連絡で確認。本人・家族の健康状況、症状のほか、急な休みになって不安定になっている方がいないかも確認しました。

幸い、罹患した方からの感染は広がらなかったため、仙台市や行政への連絡や報告を行いながら経過観察期間を経て、当初の予定通り5日間の休館で通所を再開することができました。

コロナによるこの5日間の休館での出来事、感じたことを職員・保護者それぞれの視点で書いてもらいました。

くるみ保護者 富田恭子さん(樹さん母)

コロナの関係で、すてっぷ(ショートステイ)とべんたす(ヘルパー)が利用できないため、1月31日から施設をお休みしていた樹。仙台つどいの家でもコロナの陽性者が出たので休館になったとの連絡があり、欠席日数が減ってラッキーと思う反面、買い物はどうしよう…と慌てる母でした。

20年近く樹と買い物に行っていなかったもので…。どうしようかと考えるより行動してみようと、2月2日に「樹さん買い物行くよ」と。どうせ怒られるのなら行きたいところに行って怒られた方がと、無謀にも藤崎デパートまで行ってきました。…樹は怒ることもなく、おとなしく買い物に付き合ってくれました。

コロナの接種券を見た樹は、腕に針を指す真似をして「いつ？」と聞いてきます。大規模接種センターの予約を見たら2月4日に空きがあったので、接種に行ってみることにしました。流れ作業のような仕組みが樹にとってわかりやすかったのか、ずっとスマホでYouTubeを見て待つことができ、無事に親子で3回目の接種ができました。何か休みで大変だあとと思っていたら、一緒に買い物に行けたり、ワクチン接種もできたりと、樹と2人で出来ることが増えた良い休日になりました。



さんしょ保護者 早川良子さん(奈津子さん母)

通所の帰りの送迎の時、突然「コロナが発生したので、明日から1週間お休みになります」と聞かされ「とうとう仙台つどいの家にも来たか」とびっくりすると同時に、明日からの過ごし方を想像しました。

今までは、通所施設が休みでもヘルパーさんを利用しているので何とかやりくり出来たのですが、ヘルパーさんも来られないとのことで目の前が真っ暗になりました。

食料は何とか間に合いそうで、買い物は大丈夫。でもヘルパーさんに手伝ってもらっていたお風呂は一人でやらなければいけない。気を引き締め、何とか気力で乗り切りました。

震災の時はライフラインがストップしたので大変でしたが、なんといってもあれから10年、自分の体力も落ちてきている。とにかく怪我をしないように慎重でした。

今回のことで、たくさんの方の手を借りて日常が回っていることを改めて感じるとともに、感謝の気持ちでいっぱいでした。早く通所をストップしたことで、大変だったけどコロナが広がらなくてよかったと、今は感じています。



コロナ休館で思うこと

今回の5日間の休館で強く感じたのは、まず、利用者さんの笑顔や賑やかな声が聞こえないさみしさでした。2日目くらいまでは消毒や事務作業であわただしくしていたのですが、3日目ともなると、静かな館内に耐えられない、早くみんなに会いたいという気持ちがとて強くなってきました。日頃みんなと当たり前に行っていたあいさつや、お散歩などの運動、音楽や創作、レクリエーション、作業、おいしい給食などの日常が無くなってしまいました。

しーんとした施設の中で、『今ごろ利用者さんはお家で何をしているかな』『急な休みになって、みんなはお休みを理解できたかな』『どんなふうにして折り合いをつけているのかな』…そんなことを考えるようになりました。親御さんとゆっくり過ごすことができた方もいるとは思いますが、高齢の親御さんと5日間を過ごすのは、親子双方にとってなかなか大変なことだったと思います。

久しぶりの再会の日、みんなの元気なあいさつや笑顔を見て本当にうれしくなりました。一緒に笑っていると少しずつ元気が出てきて、普段利用者さんからもらっているパワーのありがたさを強く感じました。

(記：佐藤智)

内部研修「三施設合同研修会」

1月28日に、職員内部研修を行いました。内部研修では、支援に限らず毎回さまざまな項目の中からテーマを決めて、職員全体で理解を深めています。

今回は、昨年度行われた『三施設合同研修会』の映像の一部を視聴しました。この研修会は、長年重いしょうがいのある方たちの地域での暮らしを支援してきた『朋』（神奈川）・『愛光園』（愛知）・『青葉園』（兵庫）が毎年開催しているものです。コロナ禍のためwebでの開催でしたが、その中から当法人前理事長の下郡山和子さんがお話しした基調講演を視聴しました。仙台市に何もなかったところから、仲間を増やし、声を上げて、行政や社会を動かしてきた歩みをお話していただきました。相当の覚悟とエネルギーが要ることだったと思いますが、自分の信念をもち、道を切り開いていったからこそ、今のつといの家があるのだと思いました。お話にもあった鳥の目のように広い視野と、虫の目のような細やかな視点をもって、日々利用者さんと向き合って支援をしていきたいと再認識しました。

また、コロナ禍で全国の方々と直接お話することが難しい状況の中、インターネットを通して顔を合わせて交流できるのは素敵なことだと思いました。三施設とも、当法人とも長く交流があるので、どんな方法でも途切れることなく繋がり続け、いつかまた直接顔を合わせて交流できる日を楽しみにしたいと思いました。（記：淡路）

研修報告「計画相談実務担当者研修会」

3月8日、仙台市障害者基幹相談支援センターで開催された「計画相談実務担当者研修会」に参加してきました。福地慎治氏（宮城・仙台障害者相談支援従事者協会 代表理事）・李曉冬氏（一般社団法人思箭 代表理事）の2名の講師より、「いきいきと相談支援を続けていくために ～相談支援の実践と事業運営の工夫～」というテーマに沿って、それぞれ相談支援専門員としての理念や、相談支援事業の運営の実際についてのお話を伺いました。

その中で特に印象的だったのが「本人の物語を知る」というお話です。それぞれの利用者の方の成育歴について、書類に記載された文面だけでなく、実際に本人や家族から当時の状況や心境について伺うことにより、その方の人生をより立体的なものとしてイメージできるようになる、ということでした。

講話を通して、改めてそれぞれの利用者やその家族の方が何十年と積み重ねてきた生活や思いに対する実感や、相談業務を行う上でそれらにより深く関わっていくことへの畏れ多さを感じ、身が引き締まる思いとなりました。

業務を通して様々な立場の方と関わり関係性を築いていく中で、今回学んだことを日頃から心がけていきたいと思います。（記：寺島）

Close up! 鈴木達紀さん

今回の Close Up は、もみじグループの鈴木達紀さんです。達紀さんと言えばどんなイメージでしょうか?? 会ったことのある人は「黄色が好き!」「一緒に手を叩いて遊んでほしい!」そういったことが思い浮かぶと思います。

達紀さんの1番好きなことは「人と関わること」です。いつも周りの様子を気にしていて、気になる人が近くにいるとその人に手を伸ばしたり、好きな利用者さんの話が聞こえると笑顔になります。人見知りせず、知らない方にも積極的に関わりを求めて、一緒に手を叩こうと相手の手を取りアピールします。

また、運動を頑張っている人や踊っている人を見かけると一生懸命手を叩き、全力で応援します。他にも機関車トーマスが好きなど、たくさん素敵なお表情を持っている達紀さんです。仙台つどいの家に来て達紀さんを見かけた時は、一緒に手を叩いて遊んでみてくださいね～。 (記: 八鍬)



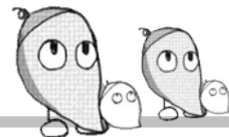
職員コラム くりす ひでゆき 栗栖 英之さん

昨年11月に入职した栗栖英之といいます。栗栖という苗字は、広島に多い苗字みたいなのですが広島には縁もゆかりも無いと聞いたので不思議です。

不思議な話や歴史上の伝説などが大好きで、特に好きなのは、出生も不明なサンジェルマン伯爵の話です。400年も前から目撃されていて、時空を超えて色々な時代や場所に現れるというタイムトラベラーの人物で、1984年から現在は日本に住んでいるという話もあるという不思議な人物です。語りたいたのですがこの話をしていると止まらなくなるのでこの辺にしておきます。答えの無いことを考えて、あーでもないこーでもないと思ふことが大好きなので、常に答えの出ない悩みを抱えています(笑)。

不思議なことというのは意外と身近なところでも起きていると思うので、何か発見がありましたら是非話を聞かせて下さいね。お待ちしております★





スケジュール schedule

令和4年 4月

- 4日(月) ケース会議 13:30 降所
 - 6・7日(水・木) 新任職員研修
 - 11日(月) 仙つ権利擁護委員会
 - 13日(水) 事業運営会議
 - 15日(金) 防災ネットワーク訓練
法人ハラスメント基礎研修
 - 19日(火) ケース会議 13:30 降所
 - 21日(木) 施設懇談会
 - 22日(金) 法人メンタルヘルス研修
 - 26日(火) 新職員歓迎会 (web)
 - 28日(木) 職員会議
- ※音楽療法・生け花の日程未定



令和4年 5月

- 9日(月) ケース会議 13:30 降所
 - 11日(水) 仙つ権利擁護委員会
 - 12日(木) 事業運営会議
 - 13日(金) 防災ネットワーク訓練
 - 17日(火) 利用者レントゲン
 - 19日(木) 施設懇談会
 - 20日(金) ケース会議 13:30 降所
 - 21日(土) 休日開館日 (さんしょ)
 - 24日(火) 職員会議
 - 27日(金) 4所合同施設懇談会
 - 28日(土) 休日開館日 (くるみ)
- ※音楽療法・生け花の日程未定

ご協力ありがとうございます

ボランティアとして協力して頂いた皆様

(1月14日～3月10日まで)

吉田さん 千年さん

見学・来訪者など



ゆあらいふ福地さん、インターンシップ鈴木さん 鎌田さん、音楽療法向井田先生、西多賀支援学校の先生、各区分調査員の方、求人支援センター仙台東、後援会針持会長・高橋副会長、鶴谷特別支援学校の先生、小松島支援学校の先生、ヤクルト、アグリ仙台、ほまれフーズ、マルイ、マルキ水産、サトー商会、米夢、ダスキン、ホシザキ東北、仙台大気堂、日本テクノ、東北食材、ブルームテック、東京サラヤ、バイタルネット、JCI 瀬戸さん、共栄防災、タカラ米穀、風の郷工房中川さん、ハート総合企画、同事建設、千葉商店、AIG 針金さん、結核予防協会、社の都産業保健会、日産サテリオ宮城、駐車場修繕工事業者さん、庄司さん (見学)

法人職員：佐藤清理事長、下郡山理事、大冢、小原、佐藤(吉)、飯田、佐藤(秋)、鈴木(恵)、佐藤(靖)、伊達、佐々木健、櫻井、片桐、佐々木忠、金野、遠田、榊原、加藤、松野

ほか多数

(以上、ご芳名順不同)

缶回収

1月分の納品額

合計 5,600 円でした。

ご協力ありがとうございました。

編集後記

時が経つのも早いもので、今年度も終わります。ここ1～2年同じようなことを言っていたように思いますが、コロナ禍で自粛して周りの様子を伺いながら生活していると、時間の流れるスピードが早いとつくづく感じています。私の息子(次男)が、3月で中学校を卒業しました。コロナ禍で何もかも中止の中で学んだ中学校生活が、あっという間に終わって4月から岩手県の高校で寮生活になります。まだまだ収束の見通しが立ちませんが、息子には頑張って!!とエールを送りたいです。(記:有住)